

Kanakogi, Y. & Itakura, S. (2011).  
 Developmental correspondence between action  
 prediction and motor ability in early infancy.  
*Nature Communications*. 2:341 doi:  
 10.1038/ncomms1342.

### 提示した他者の行為

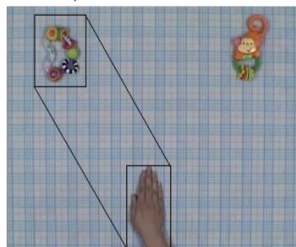


左から、目標志向的行為(GH条件), 目標志向的でない行為(BH条件), 無生物の行為(MC条件)

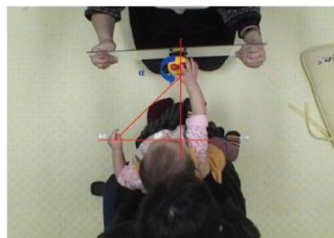
### 実験の仮説と概要

手の到着より先にこのエリアを見るか

①把持行為ができたかどうか  
 ②行動の形態から $\alpha$ を計算



1対1の発達の対応があるか?



予測のタイミング

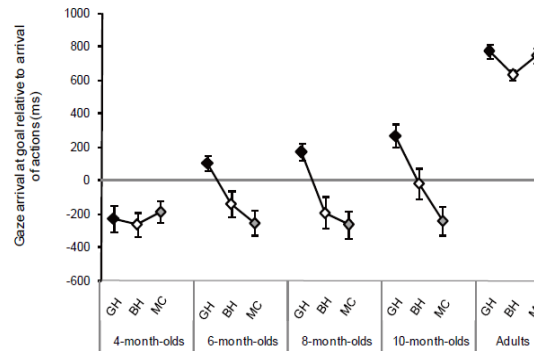
→大きくなるほど予測的

→他者の行為理解の発達の指標

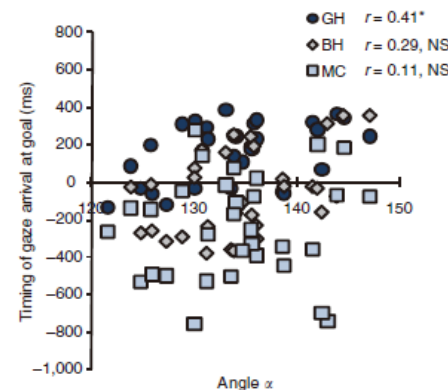
$\alpha$ の角度

→大きくなるほど発達

→自身の運動能力の発達の指標



把持行為ができない乳児(4ヶ月児)はGH条件で他者の目標を予測できないが、把持行為ができる乳児(6ヶ月児以上)は、GH条件で他者の目標を予測する



月齢の要因を統制すると、GH条件での予測能力と、把持行為の能力(角度 $\alpha$ )だけに、関連がみられた

乳児期初期における他者の行為の目標予測能力(他者の行為理解)と、乳児自身の対応する運動能力との発達の対応関係が明らかにされた